

試料・情報利用研究計画書(概要)				
研究番号	2023-2004	利用形態	内部研究	
研究題目	東北メディカル・メガバンク機構コホートにおける未破裂脳動脈瘤		研究期間	2023年6月～2028年3月
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	麦倉 俊司	教授
分担研究機関	—	責任者氏名・職	—	—
研究目的と意義	本研究の目的は、東北メディカル・メガバンク機構の大規模コホートにおいて、MRAngiography (MRA)を用いて、脳動脈瘤の頻度、発生部位、大きさ、増大率、増大のリスク因子を明らかにし、最終的には脳動脈瘤発生リスクモデルの構築を目指すものです。同時にMRA画像の品質の確認: Quality Control (QC)を行います。MRAngiography (MRA)は、脳の血管の状態をみるための撮影法であり、脳動脈瘤の有無はその目的として最も重要なものの1つです。			
研究計画概要	脳と心の健康調査(MRI)調査のMRAにおける動脈瘤の発生部位、大きさ等を画質の確認を行いながら再読影し、東北メディカル・メガバンク機構大規模コホートにおける動脈瘤の発生部位、大きさ、頻度、増大率を明らかにします。既往歴・合併疾患としては、家族性、くも膜下出血有無、対症療法、喫煙、高血圧症、多嚢胞性腎などである。上記の情報取得後、1)過去に報告されている危険因子により動脈瘤リスク群をグループ分け(層別化)します。2)層別化された動脈瘤リスク群のMRA上の経時変化を評価します。3)数理的血管分岐パターン分類と血管走行標準化、分岐点における数値流体力学による動脈瘤発生予測モデルの確立を行います。			
利用試料・情報	対象:脳と心の健康調査参加者 約12,000人(2回目調査参加者を含む) 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、検体検査情報、MRI情報、ゲノム情報			
期待される成果	MRAngiography (MRA)を用いて、脳動脈瘤の頻度、発生部位、大きさ、増大率、増大のリスク因子を明らかにし、最終的には脳動脈瘤発生リスクモデルの構築を目指します。同時にMRA画像の品質の確認: Quality Control (QC)を行います。			
倫理審査等の経過	2023年6月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認			
倫理面、セキュリティー面の配慮	研究の実施にあたっては、人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針を遵守します。 試料・情報は、スーパーコンピュータ上で限定された研究者のみがアクセス可能な環境で利用します。			
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業			
(事務局使用欄)	*公開日 2023年10月30日			